

## 新連載によせて

新城 雅子

### 新連載開始の経緯：本誌キャリア記事の歴史

生物工学会和文誌では、今までにバイオテクノロジー分野で活躍される大御所、中堅、若手の方から次の三つのシリーズの中で、ご自身のキャリアデベロップメントを紹介いただけてきました。

一つ目は、息の長い「Germination」です。若手の発信の場としてスタートし、生物工学若手研究会のことで、ご自身の研究開発のご紹介、研究・実験の進め方指南、海外留学・インターンシップ・学会参加報告などを寄稿していただいています。それに混じり、シニアからの若手研究者・技術者への期待も述べられ、2001年1号から13年を超え150名以上の方に御執筆いただけてきました。

二つ目は、「キャリアパス生物工学研究者の進む道」([http://www.sbj.or.jp/pub/pub\\_career\\_path.html](http://www.sbj.or.jp/pub/pub_career_path.html))と題して、現在大阪府立大学の岡澤敦司先生を中心にシリーズ展開されました。アカデミック、企業、ベンチャーと幅広いバイオ分野の研究者や元研究者に熱く語っていただくご自身の履歴書で、2008年2月から1年半掲載されました。この趣旨は、生物工学会「若手の会」で提案され、博士号取得者のキャリアパスについて、産学連携の視点で考えるものでした。1年半に70を超える原稿が寄せられ、2009年9月に生物工学会誌別冊として発刊されました。

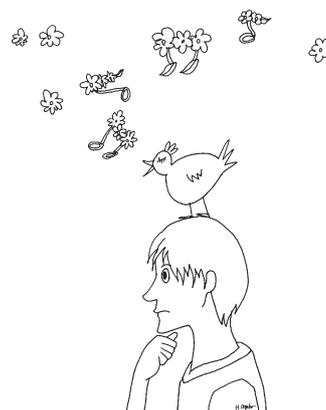
三つ目は、「女性研究者のキャリアを考える」というシリーズで、鈴鹿高等工業専門学校の小川亜希子先生を中心に2009年12号からスタートし、2012年8号まで継続されました。国際的な活躍、研究者・元研究者としてのご経験、子育て奮闘記も含まれ、女性研究者のみならずイクメンをも後押しする連載になっています。女性管理職者の登用拡大が2013年政府の「成長戦略」に含まれ、女性のマルチタスク能力を活かし、余裕を持って働ける日本社会になることが期待されます。

### 新連載の趣旨

2013年6月に生物工学会和文誌の編集委員の一部交代を機に、奈良先端科学技術大学院大学でバイオ分野の企業人としてキャリアアドバイザーを務めている私も、本誌編集委員に加えていただきました。そして上記シリーズを発展解消する形で新しいキャリア関連の企画を立ち上げることになりました。

和文誌の読者は、工学の生物工学分野の出身の方に加え、農学、薬学、理学、バイオサイエンス、化学など広範囲にわたっています。大学生、大学院生に将来像をイメージしてもらうための情報源として、またキャリアデベロップのため転職する方を含め、和文誌の読者のどの年代の方にも参考にしていただける話題を提供して参りたいと思います。また世代間でのコミュニケーションが、より活発になることを期待しています。読者の皆さまから、ご要望や寄稿をお願いしたい方のご推薦も伺いながら、より有意義な連載に発展させて参りたいと思います。双方向コミュニケーション、よろしくお願ひします。

〈ご意見、ご推薦などの宛先〉E-mail: [info@sbj.or.jp](mailto:info@sbj.or.jp)



企画・編集担当委員：

蓮沼誠久、矢田美恵子、小川亜希子、宗景ゆり、新城雅子